

3・4年次：演習Ⅰ・Ⅱ（法哲学）

古典の講読を通じて、考える力を鍛えます。

いつも先生から「ゼミでは正解を言おうとしなくても良い、失敗が許される大学生のうち何でも発言して、いっぱい間違えても良い」と言われます。それでも難しくて言葉が浮かばないときがあります。そんなときは、先生がダジャレを言って、場を和ませてくれます。



須崎彩さん

古典には、現代にも共通する問題が書かれていて驚きます。過去は現代とは違うものだと思っていましたが、問題解決のヒントをくれるものとして、歴史の重要性を感じています。法哲学は、イデア論から角界問題まで、幅広い問題を扱える学問で、普段の行動とか生活の中で感じたこととか、身近な話題でも議論できるところが魅力です。議論しながら、自分でもわかっているのか、わかっていないのか、それすら、わからなくなることがあります。すぐに答えは出ないのですが、しばらく経って「こういうことなのかな」とちょっと気づけたり腑に落ちたりしたときは、うれしいです。確かにわからなくて難しいけど、だからこそ、知りたいと思えるし、そこが法哲学の面白いところです。